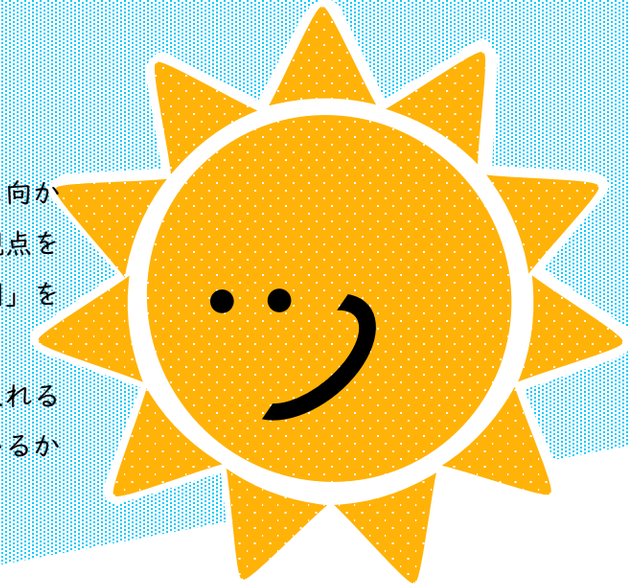
単元構想図

児童生徒が真剣に，本気になって学びに向かう学習活動を構想するうえで，ＰＢＬの視点をもとに，海田西中校区独自の「単元構想図」を活用しています。

また，期待される児童生徒の姿を書き入れることで，資質・能力が確実に育成されているかどうかを把握することができます。



海田西中学校区　探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業

主体的に学びを深める児童生徒の育成

～探究的な学習の単元開発・実践・改善を通して～

「児童生徒の資質・能力をひまわりのようにのびのびと育んでいきたい」。そのような願いのもと，「単元構想図」を温かく照らし成長を促す「太陽」に，「振り返りの視点」を生命の源である「水」に例え，取組を進めてきました。

単元構想図　第４学年　単元名「西のチカラプロジェクト～みんないきいき！住みよい町づくりを目指して①～」（全４１時間）

≪本質的な問い≫

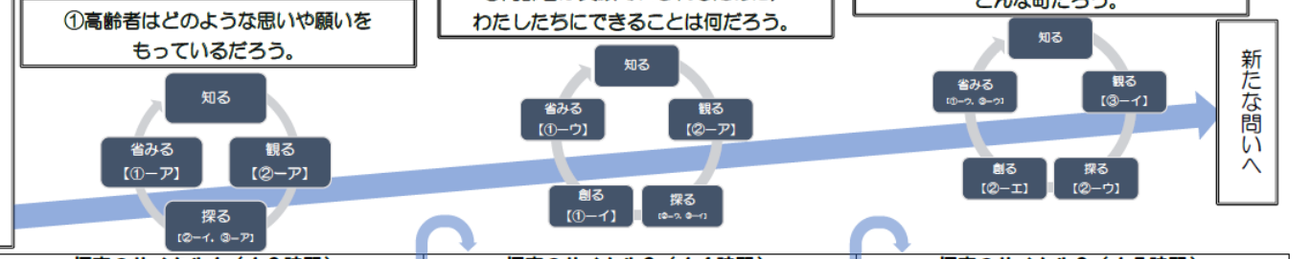
海田町に暮らすすべての人々が笑顔でいられる町であるために，わたしたちには何ができるだろうか。

問題：地域の人とのかかわりが薄い。

①高齢者はどのような思いや願いをもっているだろう。

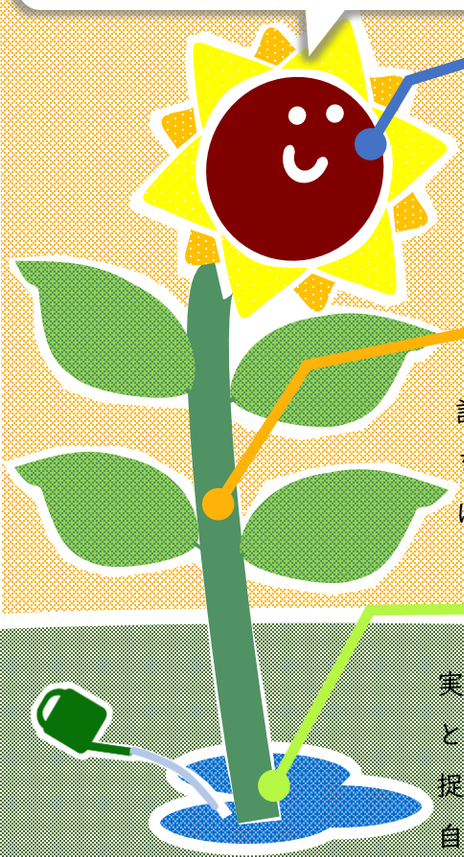
②高齢者が笑顔でいられるために，わたしたちにできることは何だろう。

③高齢者が笑顔でいられる町って，どんな町だろう。



	探究のサイクル１（１２時間）	探究のサイクル２（１４時間）	探究のサイクル３（１５時間）
知る	・3年時の学習から，海田町にはいろいろな世代の人が住んでいることを捉える。 ・すべての人が幸せにくらすために「福祉」という考えがあることを知る。	・新聞記事から，わたしたち高齢者に関わることで，元気や笑顔を届けることができることを知る。	・織田幹雄スクエアでの「寿大学」など，町内で高齢者を笑顔にするための活動をしている人がいることを知る。
観る	・動画教材（NHK for school「ドスルコスル」）から，高齢者が抱える問題として，「老老介護」「孤立化」があることを知り，「高齢者は幸せにくらせているのだろうか」という課題をもつ。	・プロジェクトを立ち上げ，海田町の高齢者との交流会の計画を立てる。	・「寿大学」で活動している人たちは，どのような思いをもって活動しているのか話を聞き，2回目の交流会に向けた課題を明らかにする。 ・2回目の交流会に向けた今後の計画を立てる。
探る	・海田町社会福祉協議会や「車椅子とことこクラブ」と連携し，高齢者疑似体験を通して，高齢者の身体的不自由さを体験する。 ・インターネットや本から，高齢者の目の見え方や聞こえ方，認知症，社会福祉施設などについて調べ学習をする。 ・「車椅子とことこクラブ」の方々にインタビューを行い，元気の秘訣や困り感，悩み，わたしたちへの願いなどを聞く。 ・調査したことをもとに，高齢者が元気に暮らすための秘訣が，「人と関わること」であると分析する。	・「高齢者もわたしたちも楽しめる遊び」について話し合う。 ／ダイヤモンドランキング，ピラミッドチャート ・「視点に沿っているか」「実現可能か」について，交流会の内容について検証し，交流会の目的を明確にする。	・「寿大学」で活動している人たちの思いを整理し，自分たちの活動と関連付ける。 ・1回目の交流時の課題をもとに，交流会の内容を分析し，改善する。 ・「視点に沿っているか」「実現可能か」について，交流会の内容について検証する。
創る		・海田町社会福祉協議会や海田町の高齢者（「車椅子とことこクラブ」「あじさいの会」「六つ星」）と1回目の交流会の準備をする。 ・交流会を実施する。	・海田町社会福祉協議会や海田町の高齢者（「車椅子とことこクラブ」「あじさいの会」「六つ星」）と2回目の交流会の準備をする。 ・交流会を実施する。
省みる	・学びを振り返り，海田町に住む高齢者が笑顔で暮らせるために，私たちにできることは何かという視点で学習を振り返り，新たな課題に気付く。	・1回目の交流会について，交流会の満足度や問題点，自己の生き方の変容について振り返り，2回目の交流会に向けた新たな課題を設定する。	・自己の生き方ともつなげながら，単元を通した学びを振り返る。

資質・能力の育成をより確かなものにするため，中学校区で育成する資質・能力を設定しました。「学びを言語化し，主体的に自己の生き方について考える児童生徒」を育てていきたいと考えています。



コミュニケーション力

探究の過程において，自分の考えをもち他者に伝えるとともに，異なる意見や考えを生かしながら合意形成を図り，他者と協力して問題の解決に向けた探究に取り組むことができる。

主体性

課題の解決に向け，自分の意思で目標をもち，周囲と協働しながら探究活動に粘り強く取り組むことができる。

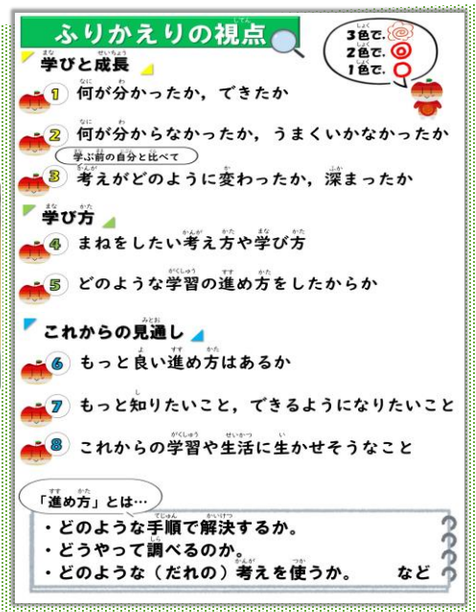
メタ認知

実社会や実生活における「ひと・もの・こと」との関わりを通して，自分を俯瞰して捉え，考えを広げたり，深めたりしながら自己の生き方を考えることができる。

振り返りの視点

振り返りは，自己と対話することで，学習内容とつながり，学びの広がりや深まりを自覚することができます。また，自己を見つめることは，「メタ認知」を育成することにつながります。

海田西中学校区では，各校の実態に応じて振り返りの視点を設定し，児童生徒の実態，学習内容や活動によって，柔軟に視点を与えています。



【海田西小学校の振り返りの視点】

海田町の「人・もの・こと」

古くは山陽道の宿場町として栄え，今でも交通の要衝となる利便性・快適性が高い町です。また，町外からの人口流入も多く，暮らしやすさが実感できる町です。町の中心部では都市化が進む一方，豊かな自然や歴史ある町並みも現存しています。日本人初の金メダルを獲得した織田幹雄，江戸時代より伝わる郷土料理「海田さつま」などが自慢です。海田西中学校区では，地域の「材」を生かし「本物」の探究を進めています。